

平成29年度

事業報告書

社会福祉法人平群町社会福祉協議会

(自) 平成29年4月 1日

(至) 平成30年3月31日

# 平成29年度事業報告

## 概要

平群町社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な団体として住民主体の理念に基づき福祉課題の解決に取り組み、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを目指して業務を行っています。平成29年度も事業計画に基づき事業を実施いたしました。

地域福祉活動として推進しています小地域ネットワーク活動は、現在各地域において、サロン活動をはじめ地域住民による見守り活動や、支え合い活動を目的としてそれぞれの地域で様々な取り組みが行われており、地域住民の交流の場所として世代を超えて多くの住民の皆さんが参加され、地域での活動を豊かに育てる土壌づくりに取り組まれました。

また、4月に立ち上げを予定している、若葉台地区「ふれあいサロン若葉」の支援を行いました。

ボランティア育成活動については、小学生・中学生を対象としたボランティアスクールを夏休み期間中に開催し、ボランティア精神の伝承や交流を深め将来の平群町を担う子供たちの一助になる機会となりました。

ボランティア講座については、日ごろ地域福祉活動に活躍されておられる方やボランティア活動に関心のある方を対象に開催しました。

赤い羽根共同募金・日赤赤十字社資募集活動については、地域住民の活動趣旨に対するご理解のもと住民の皆さんや、関係機関各種団体の協力をいただき目標額達成に近づけることができました。

地域包括支援センターの運営・ふれあい交流センターの管理については、認知症高齢者や一人暮らし高齢者などが増加するなか、総合相談や介護予防・生活支援体制整備・認知症に関する取り組みなどを行い、高齢者等が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるように支援を行いました。

指定管理を受けております老人福祉センターかしのき荘の管理については、介護予防の取組みとして認知症予防・介護予防のための体操教室を実施しました。民間事業所としての能力・個性を發揮し高齢者福祉活動の拠点の場所として利用者のニーズに答えるべく魅力ある施設管理に努めました。

住み慣れた地域で誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりのために多くの人や関係機関・団体と連携しながら各種事業の推進に努めました。

## 総務地域福祉係

### 【 全体評価 】

各種事業については概ね事業計画通りに遂行することができた。

総務分野においては、適切な組織運営と情報公開に努め、法改正等に伴った規則の見直しや必要な対応を行った。会費会員制度については今年度も目標達成には至らなかったが、各種事業や地域福祉活動支援等の機会を通して会費会員制度の趣旨をご理解いただけるよう、これまで以上に積極的な活動と丁寧な説明に努めた。

地域福祉分野においては、小地域ネットワーク活動やボランティア活動の更なる推進を目指し、各種団体や地域住民の皆様との協働やコミュニケーションを図り信頼関係を深めると共に、活動運営上の悩みや地域のニーズを共有し、共により良い活動や方向性を模索した。小地域ネットワーク連絡協議会等の運営支援を通し、横のつながり作りへの取り組みにも力を注いだ。

日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付等に対する相談やニーズも増加しており、行政等とも連携しながら生活困窮者等、要援護者の把握や切れ目のない支援に努めた。

共同募金については昨年度同様、共同募金委員会を中心に積極的な募金活動が展開され、募金実績をもとに様々な地域福祉活動へ還元することができた。

事業名	実施日時等	内容
理事会・評議員会・監査	理事会 5/31.6/20.3/19 評議員会 6/20.3/29	審議事項 ・会長、副会長及び常務理事の選定について ・28年度事業報告並びに収支決算について ・経理規程改正について ・定款の一部改正について ・29年度補正予算について ・30年度事業計画並びに収支予算について その他、業務執行報告 等
	<b>【 事業総括 】</b> 適正な事業運営を図るため、理事会・評議員会及び監査を実施した。法改正に伴う規程の改正や、組織運営および各種事業についての協議を行った。	
経理・会計・労務管理 契約関係	年間	社会福祉法人会計基準に沿った会計処理を行い、雇用・人事・労務管理体制の整備、充実を図った。
	<b>【 事業総括 】</b> 各種法令や規定を順守し、組織運営の基盤整備に努めた。社会福祉法人会計基準に基づき適正な会計処理に努めた。労働契約法改正等による就業規則の変更も行った。	
社協会費	年間	一般会員一口1,000円、特別会員一口5,000円で社協会員を募った。 会員件数     330件 会費合計     503,000円
	<b>【 事業総括 】</b> 会員数は前年度とほぼ横ばいであった。地域に根ざした福祉活動を地域住民と共に展開していくためには、理解と賛同が必要不可欠となる。地域活動や社協だより、ホームページ等を通じて社協組織や会費会員制度を身近に感じてもらい、理解と協力を得る為に職員一同今後も一層の努力をしていきたい。	

情報公開	年間	希望者に文書を開示し情報を公開することにより、事業の理解と信頼を深め、公正で開かれた住民本位の社協運営に努めている。
	<b>【 事業総括 】</b> 情報公開請求はなかったが、今後も適正な文書整理・管理に努め、地域住民の信頼に応え得るよう努力していく。	
生活福祉資金貸付事業	随時	低所得者や障がい者、離職者などに対し、生活についての相談に応じると共に、資金の貸し付けを行い、当事者やその世帯の自立生活に向けた支援を行う。
	<b>【 事業総括 】</b> 緊急を要する生活困窮世帯に対し、公的制度の決定に至るまでの間、フードレスキュー支援及び緊急小口資金の貸付につなぐことができた。また、子どもの入学時経費の支払いに苦慮している低所得世帯からの相談に応じ、教育支援資金の貸付につなげた。 相談件数 25件 貸付件数 5件（緊急小口資金 3件、教育支援資金 2件） フードレスキュー（緊急食料支援） 1件	
日常生活自立支援事業	年間 (月～金)	判断能力が十分でない人が福祉サービスを利用する際に、自己決定をできる限り尊重し、その意思の実現を援助する。 利用者数 9名 延べ利用回数 142回
	<b>【 事業総括 】</b> 金銭管理が困難な一人暮らしの認知症高齢者や精神障がい者と契約し、定期的に生活支援員が訪問して日常的な金銭管理を支援している。本人から希望があれば、福祉サービスの情報提供も行い、生活面の支援も担っている。住民に事業を知っていただき、利用者を増やすため周知に努めていく。	
日赤平群町分区活動	随時	被災者への生活支援や日赤奉仕団の活動の支援を行った。 義援金募集の取り組みを随時行っており、九州豪雨災害については、合計38,844円の義援金を県支部に送金した。熊本地震災害募金、東日本大震災災害の義援金募集の取り組みも継続して行っている。 また、地域住民の方々、町内法人にご協力いただき、社資を募った。 社資募集実績：自治会・個人募金→ 1,294,460円 法人募金→ 343,000円
	<b>【事業総括】</b> 平成29年度は、九州豪雨災害が発生。国内でも近年大きな災害が頻発しており、多くの被害があった。災害から学び、地域の防災意識が高まるように努め、引き続き住民と連携を図っていく。 社資募集は住民に対して日赤活動に対する理解と協力をお願いしていく。 東日本大震災義援金合計(平成23年3月～30年3月末日→7,473,087円) 平成28年熊本地震募金合計(平成28年4月～30年3月末日→470,185円)	

平群町共同募金委員会 共同募金活動	10月～12月	平群町内で福祉事業を公募し、目標計画・助成額を決定。運動実施期間中に、戸別募金・街頭募金・篤志家募金・募金箱設置・イベント募金等を行い、目標金額の達成を目指した。 目標金額 1,980,200円 公募事業数 13件 募金総額 2,301,118円
	<p>【 事業総括 】</p> <p>寄付者に、「自分の町をよくする募金」として積極的に募金活動を展開。町内駅前・店頭・町主催のイベント会場において募金運動を展開し広く地域住民に共同募金のしくみについてPRすることができた。</p> <p>ご協力いただいた募金の使途を知っていただけるよう、全戸配布の「ありがとうメッセージ」を通して、地域住民に共同募金の仕組みについての理解を深めた。今年度も目標額を達成することができ各団体へ要望額どおり助成金の配分を行うことができた。今後も平群町において、福祉教育・ボランティア活動推進・子育て支援事業など、様々な活動に共同募金配分金を活用してもらえるよう啓発運動について検討していく。</p>	
善意銀行	年間	地域住民の善意による金品の預託を受け、効果的に地域に還元することにより地域の社会福祉増進に努める。 寄付件数 10件 550,000円
	<p>【 事業総括 】</p> <p>住民の皆様より提供して下さる金銭・物品等について、適正な管理をおこなった。ご寄付下さる方の思いや福祉向上へのご期待に応えることができるよう努めていかなければならない。また、寄付を身近なボランティア活動と位置づけ、参加しやすい環境づくりに取り組むと共に、地域における寄付の窓口として、制度の周知にも努めていきたい。</p>	
団体事務局	年間	民生児童委員協議会・身体障害者福祉会・日赤奉仕団・ボランティア連絡協議会・更生保護女性会・小地域ネットワーク連絡協議会などの事務局として活動運営に便宜を図り、連携を強めることで共に地域福祉の向上に努めた。
	<p>【 事業総括 】</p> <p>各種団体の活動を積極的に支援し、活動推進に協力することができた。事務局業務を通し、各種団体とのより良好な信頼関係づくりに努め、地域福祉活動の充実を目指した互いの連携と協働を進めている。</p>	
福祉有償運送事業	年間	介護保険の認定を受けた方、事業対象者および障害者・療育手帳をお持ちの方を対象に、医療機関の通院や福祉・公共施設及び買い物の送迎で社会参加への支援を行う。 延べ利用件数 2,340件
	<p>【 事業総括 】</p> <p>医療機関等への送迎に加え、買い物時にもご利用いただけるようサービス範囲を広げたが、買い物でのご利用についてはまだ少なく、従来通り医療機関への送迎が主になっている。今後も利用者のニーズに応じたサービスが提供できるよう、引き続き運転ボランティアの養成等に努めると共に、関係機関との情報交換や連携により、きめ細やかな利用者支援にも心がけていく。</p>	

点字・声の広報発行 【 受託事業 】	年間 (月1回)	点字や声の広報CDの配布により、文字による情報入手が困難な障がい者へ情報を提供した。 実利用者数 8名・延べ利用者数 95名
	【 事業総括 】 広報発行作業に協力いただいているボランティアがより効率的に作業ができるよう環境を整えた。施設入所などにより利用者数は微減傾向にあるが、社協だよりなどを活用して周知に努めていく。	
療育教室 【 受託事業 】	月3回 (第1～3火曜日)  12月以降は月5回 (第1・2木曜日を追加)	親子間での遊びや集団行動を通して、発達に見守りが必要な幼児や、育児不安などで悩んでいる母親に対し、健全な発達を促し、健康保険課・子育て支援センターと連携を図りながら当町における子育て支援の一端を担った。 実参加幼児数 19名・延べ参加幼児数 362名
	【 事業総括 】 早期に教室への参加をしてもらうことにより、経験不足や場所見知り、親子間での遊びや集団行動を通して言葉の遅れに支援が必要な幼児、育児不安をもつ母親に対し一人ひとりの子どもが情緒豊かに育つよう、発達の援助を行うことができた。 また、定期的に個人懇談を行い、子育てに不安を持つお母さんへの相談助言を行うことで入室児へのきめ細やかな発達支援を行うことができた。関係機関との連携を図り、幼児を取り巻く生活環境や家庭環境などの課題を共有し、支援方法を検討しながらより丁寧に支援を行った。個人ボランティア・民生児童委員・更生保護女性会の協力による支援で社会性を身につける上で大きな役割を果たしている。今後もきめ細やかな対応で教室に安心して参加してもらえるよう努めていきたい。	
学校ボランティア連絡会	随時	学童期からの福祉教育の推進を図るため、町内の小中学校のボランティア担当教諭と連携を図った。子ども達がボランティアを身近に感じ、心豊かに成長できるよう、情報提供や、講師派遣の連絡調整などの協力を行った。
	【 事業総括 】 町内の小中学校へボランティア協力校助成金交付を行い、福祉教育やボランティア精神の普及といった面においての情報提供や協力を努めた。今後は、登録ボランティア団体と各校のボランティア担当教諭との橋渡し役を担い、3者で連携をとりより良い関係性を築いていく。	
福祉機器貸し出し	年間	一時的に福祉機器が必要となった方へ、車椅子などの貸出を行った。 延べ貸出件数 68件
	【 事業総括 】 一時的に福祉機器が必要となった方に、一定期間無料での貸し出しを行っている。介護保険制度による福祉機器のレンタルもあることから利用者は減少傾向にあるが、急なけがや短期の旅行等への利用で喜ばれている。個々の状況に応じた柔軟な対応を心がけ、機器のメンテナンスについてはボランティアの方々のご協力もいただきつつ、貸出体制の充実に努めた。	

生活訓練事業 【 受託事業 】	6回	障がい児（者）に対して日常生活上必要な生活動作を身につけていただくため、各教室を開催した。 開催日数 6日 実参加者数 13名 延べ参加者数 38名
	【 事業総括 】 例年通り、事前説明会と事業終了後に意見交換会を開催し、事業を振り返る機会を設けた。 行政職員や町内ボランティア団体の協力を得て各プログラムを開催。参加者からはいろいろ勉強になったのでまた開催してほしい、などの声があった。	
レスピット事業 【 受託事業 】	夏休み 冬休み 春休み	療育手帳の交付を受けた児童および知的（発達）障がいや、それに準ずる学齢期の児童・生徒の長期休み（春・夏・冬）時に集団活動、過ごす場を提供。保護者の一時的な負担の軽減となるよう努めた。 開催日数 11日 実参加者数 14名 延べ参加者数73名
	【 事業総括 】 参加する児童は知的障がいに限らず、発達（精神）障がいや自閉症など多様化している。受け入れる児童の興味や成長に合わせて、安心して過ごせる活動の場を提供。生活協力員の支援により、友達とのふれあいや集団行動を通して経験を広げ児童・生徒の成長を促すことに努め保護者の一時的な負担軽減となるよう円滑に事業を行った。 今後も参加児童数が増えることが予想されるので、支援する生活協力員の資質向上にも努めていく。	
シングル家庭交流会	—	ひとり親家庭を対象に、地域の関係者とのつながりを持ち、町内の母子・父子家庭の現状やニーズを広く把握し、今後の支援につなげるため実施している。 民生児童委員、社協職員など関係団体につなげて支援活動を行い、当事者を通して新たなニーズの把握と親子のふれあいの時間を持てるように努める。
	【 事業総括 】 今回は、10月29日に京都鉄道博物館を予定していたが、参加希望者が親子1件の参加者2名であったため開催できなかった。	
ボランティアセンター	年間	ボランティア活動者や関心を持つ地域住民へ向けて、ボランティア保険・助成金等についての各種情報提供・物品貸出・講座の開催を行った。また、ボランティア活動を開始するにあたり新たな住民からの相談支援を行った。
	【 事業総括 】 新たにボランティア活動を行いたいと住民からの相談を受け、活動場所の紹介やボランティア保険についての説明等の支援を行った。また、既存のボランティア登録団体からは活動者の高齢化により今後の活動についての相談を受けた。今後も相談体制などボランティアセンター機能の充実を図り、町内においてボランティア活動推進の拠点となれるよう目指していく。	

ボランティアスクール	<p>7/24.7/26 7/27.7/31 8/21.8/23 (全6回)</p>	<p>小学生高学年と中学生を対象に長期の夏休みを利用し、ボランティアや福祉、環境問題や平和、いじめ問題等、全6回のプログラムを実施。 実参加者数 小学生16人・中学生3人 延べ参加者数31人</p>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>① 長年小学校で教師をされていた民生児童委員を講師に招き、いじめ問題について考え、言葉ひとつで仲間にもなれるし傷つけてしまうことを学ぶことができた。</p> <p>② 児童向けの認知症サポーター養成講座と、アイマスク体験を行った。認知症高齢者や視覚障がい者の気持ちを考え、どのような対応を取ればよいか考えることができた。</p> <p>③ 竜田川水域の生物・水質を調査することにより、生活排水を減らし川をきれいにする事で自然が豊かになること、自然の大切さに気付くことができた。</p> <p>④ 防災士より、いざという災害時にどのような行動を取れば良いか、また日頃行っておく災害への備えを学んだ。また、学校や公園で見かける「かまどベンチ」を災害時どのように活用するか実際にかまどを使用し知ることができた。</p> <p>⑤ 畿央大学災害復興ボランティアで活躍する現役の大学生を講師に招き、子どもたちにとって比較的年齢の近いお兄さん、お姉さんが何故ボランティアを始めたのかを知り、自分たちに今何が出来るのかなどを考えるきっかけとなった。</p> <p>⑥ 滋賀県平和祈念館を訪れ、学童疎開を主に戦時中の生活の様子を学んだ。同じような世代の子どもたちが、大変な思いをして生活していた事などを学び、家族や食べ物のおりがたみ、平和の大切さを考えることができた。</p> <p>参加者の児童・生徒数が減っているため、子どもたちが興味を持ち、親も参加させたいと思える内容を企画し、今後も福祉教育の推進に努める。</p>	
ボランティア講座	<p>3/6.3/7.3/8</p>	<p>地域福祉活動に活躍されている方や関心を持つ方へ向け、ボランティア活動や養成講座の参加につながるような内容で、全3回のプログラムで開催した。 参加者数 3/6 (24名) ・3/7 (27名) ・3/8 (25名) 合計76名</p>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>①まほろばあいサポーター研修を開催し、障がいについて幅広く学んだ。障がいを理解すると共に、障がい者が困った時など、声が掛けやすい存在となれるようサポーターとしての役割を考える機会となった。</p> <p>②手話・音声訳・要約筆記について学んだ。聴覚障がい者、視覚障がい者にとってどのようなことが日常生活で「障害」となっているのかなどを理解し、手話や音声訳、要約筆記の役割について知ることができた。</p> <p>③心配ごと相談事業の講座を兼ねて実施し、家族や友人が精神的に悩んでいたり相談を受けた際、どのような対応をしたら良いか援助方法を学んだ。相談者の気持ちに寄り添い理解し、相談を受ける側も健康であることが大切であるということを知ることができた。</p>	



社協だより発行 ホームページ公開	12回 (毎月発行)	紙面では地域で行っている健康や介護予防の活動を紹介したり、小地域ネットワーク活動を随時掲載している。また、福祉に対する啓発として社協の活動、ボランティアの情報、地域包括支援センターの記事、講座の案内等を掲載した。ホームページについても適宜内容の更新に努めた。
	<b>【 事業総括 】</b> タイムリーな記事を心がけ、介護予防につながる記事や生活の中の役立つ福祉情報などを掲載した。これからも更なる良い紙面を目指して内容の充実を図る。 ホームページについても、社協だより同様、住民の皆様に親しんでいただけるよう内容の充実に努めていく。 ( <a href="http://heguri-shakyo.or.jp/">http://heguri-shakyo.or.jp/</a> )	
小地域ネットワークづくり	年間	春日丘、緑ヶ丘、北信貴ヶ丘、御陵苑、初香台、上庄台・月見台、椿台、光ヶ丘、平等寺、ローズタウン若葉台、若井、吉新、三里、西宮、菊美台（15地域）でサロン活動や見守り活動を通じて、住み慣れた地域で安心した生活を送れる地域づくりを支援し、活動助成金を配分した。
	<b>【 事業総括 】</b> 地域住民同士、世代を超えて交流し、互いに顔が見える関係が作れるようサロン活動や研修の支援を行った。活動者同士が顔の見える関係となり、課題や情報が共有できるよう中央公民館にて第一回ふれあい会を開催した。また、若葉台地区のネットワーク立ち上げに関して相談支援を行った。	
手話奉仕員養成講座 (基礎課程) <b>【 受託事業 】</b>	基礎課程 (全25回)	厚生労働省が定めたカリキュラムに基づき、入門課程修了者及びそれに準ずる方を対象に開催。手話で日常会話ができる技法の習得を目指した。 実受講者数 4名
	<b>【 事業総括 】</b> 聴覚障がい者の社会参加促進を図るため、奉仕員を養成。修了者には、引き続き手話サークルでの習得を促し奉仕員の養成に努めた。	
点訳奉仕員養成講座 (初級) <b>【 受託事業 】</b>	入門課程 (全6回)	初めて点字を学ぶ方を対象に、視覚障がい者の方の読み書きができる文字・情報提供の方法を習得。 実受講者数 6名
	<b>【 事業総括 】</b> 視覚障がい者の社会参加の促進を図るため、奉仕員を養成。修了者には点訳サークルの紹介を行い、引き続きサークルでの習得を促し、視覚障がい者の理解者を増やしていけるよう努めた。	
聞こえのサポーター養成講座 (初級) <b>【 受託事業 】</b>	入門課程 全5回	初めての方を対象に、要約筆記を通して聴覚障がい者への理解と支援の方法を習得。 実受講者数 6名
	<b>【 事業総括 】</b> 奈良県中途失聴難聴者協会・OHPへぐりの協力のもと、聴覚障がい者の理解を通して聞こえない、聞こえにくい方々へのサポート方法を習得。修了者には引き続き、習得を目指すサークルを紹介。聴覚障がい者への理解者を増やしていけるよう努めた。	

<p>生活協力員養成講座 及び現任研修 【 受託事業 】</p>	<p>全4日間 (1日実習)</p>	<p>初めて障がい者支援について学ぶ方と、現任の生活協力員を対象に、障がい者（発達・精神）への理解と支援の方法や障害福祉の制度とサービス、平群町福祉施策、障がい者と音楽療法等についてを習得。 実受講者数 18名</p>
<p>【 事業総括 】 知的（発達・精神）障がいやそれに準ずる学齢期の児童・生徒および療育手帳保持者の社会参加促進や保護者の一時的軽減負担および余暇支援の付き添いなどを行う生活協力員を養成。福祉をとりまく状況が変わりつつある中、障がいについての理解を深めるとともに、協力員の養成・育成に努めた。</p>		
<p>協力員・奉仕員の派遣</p>	<p>随時</p>	<p>要約筆記奉仕員、手話奉仕員、生活協力員の派遣を行った。 要約筆記奉仕員活動時間 延べ126.5時間（奉仕員登録5名） 手話奉仕員活動時間 延べ234.5時間（奉仕員登録17名） 生活協力員活動時間 延べ529.5時間（生活協力員登録41名）</p>
<p>【 事業総括 】 手話奉仕員派遣と要約筆記奉仕員派遣ともに昨年度より派遣回数が増加した。国文祭・障文祭の開催に伴い、派遣のニーズが必要になったことが考えられる。 生活協力員の活動時間が昨年度より増加したのは、定期的に自宅での一時見守り支援（個別派遣）の利用および、レスピットの参加者数が増えたこと。また利用者の家庭環境や生活環境の変動により多用かつ急なニーズの支援が増えたことと考えられる。 生活協力員の支援は保護者からの信頼も厚く、委託元である行政（福祉課）との連携により保護者の一時的負担軽減を図ることができた。 今後も、利用者のニーズに応えることができるよう関係機関と連携を強化しスムーズに遂行する。</p>		
<p>心配ごと相談事業</p>	<p>年間</p>	<p>専用電話による相談を実施。面談希望者には予約制にて、木曜日の午前中にプリズムめぐり内の相談室にて対応する。 相談件数 17件 (精神衛生 8件) 専用電話：45-8088 相談員：民生児童委員（3名）</p>
<p>【 事業総括 】 相談件数の内、約半数が精神衛生に関する相談であった。相談者の不安や悩みを受け止めるよう傾聴を心掛けた。相談者が不安定な状態で自殺願望ともとれる電話相談を受けた際には、行政（福祉課）と連携し互いに情報を共有し見守ることができた。また、精神衛生以外は健康問題や、家族の悩みなど相談内容は様々であった。 相談員に対し、ボランティア講座等の機会も活用して相談援助に関する研修にも取り組んだ。今後も地域の身近な相談相手として相談者の不安や悩み、苦情を受け止め、住民にとって親しみやすい相談所として運営していきたい。</p>		

## 老人福祉センター 「かしのき荘」

### 【 事業評価 】

平群町からの指定管理業務の委託を受け、町の第5次総合計画に沿って、民間事業所としての当会の特性と専門性を活かして利用者のニーズを速やかに施設運営に反映できるよう努めた。

施設管理面においては、非常灯の改修を行った。施設の老朽化が進んでいるため、今後もスムーズな対応が必要である。

高齢者福祉活動・介護予防の拠点として、介護予防のための体操教室や脳トレーニングを実施した。教養講座では、救急法を学んだ。また、様々な高齢者のクラブ活動をかしのき荘で行うことにより、シルバー世代の交流の場として、各種団体より認知もしていただいている。

29年度も町内ひとり暮らし高齢者にかしのき荘を広く知ってもらうため、また、社会的孤立感の解消のために、ひとり暮らしサポート事業を開催した。毎回新しい参加者もあって、住民にも浸透しつつあり、昨年度よりも参加者が増えた。

積極的な声掛けなどによりコミュニケーションを図り、利用者の声を取り入れながら、より多くの方に気持ちよく施設を利用していただけるよう、今後も管理・運営を行っていきたい。

事業名	実施日時等	内容
施設の管理・運営	年間	<p>① 安全管理、衛生管理 安全に施設を利用していただけるよう、配慮に努めた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○設備の保守点検及び改修の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 非常灯改修工事、風呂シャワー取替工事等</li> </ul> </li> <li>○火災予防など日常の安全点検               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 消防用設備点検業務・電気管理業務委託業者と連携を図り定期点検し安全管理強化に努めた</li> <li>→ 火気点検表を作成し安全管理を徹底</li> <li>→ 利用者の協力を得て、避難訓練を行った</li> </ul> </li> <li>○利用者の体調不良など、緊急時における対応の強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 地域包括支援センターとの連携を図り急患など不測の事態に備えている</li> </ul> </li> <li>○各衛生管理               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 館内・外の清掃業務や長寿会の方と共に除草作業を行い、衛生管理に努めた</li> </ul> </li> </ul> <p>②利用ニーズの調整 各部屋の利用表作成による利用ニーズの調整 年間開館日 291日 年間利用者数 49,014名</p> <p>③利用内容の充実と利用者の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○長寿会クラブ活動 40のクラブがあり多数活動されている</li> <li>○個々の利用者の利用促進、新たな利用者層の確保 ビデオ上映会（毎月）、ゆーあいサロン（毎月3回）</li> </ul>
		<p>【 事業総括 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全を配慮し、老朽化に伴う修繕を順次行っている。</li> <li>・長寿会のクラブ、一般利用者の部屋の利用頻度が増えている。</li> </ul>
各地区送迎サービス	年間	<p>各地区長寿会単位クラブに対し送迎車の運行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行 445回</li> <li>・利用者数 2,751名</li> </ul> <p>利用者の移動支援に努めた。</p>

	<b>【 事業総括 】</b> ・利用者のニーズに対応するよう努めた。	
情報提供サービス	年間	健康や生活情報、介護予防等につながる様々な情報を収集・情報提供に努めた。
	<b>【 事業総括 】</b> 地区長寿会及びクラブと調整し、町健康保険課に健康をテーマとする講習会などを行っている。	
各種相談	月.木.金	看護師による健康相談の実施 ・月.木曜日 長寿会担当 10:30～13:00 ・金曜日 社協担当 13:00～14:00 ・相談件数 1,073件
	<b>【 事業総括 】</b> 利用者の様々な相談に応じ、長寿会健康部と協力して種々の情報提供にも努めた。	
教養講座	年間	「救急法」やAEDの使用法の内容で開催 (9/30に開催し町内高齢者など16名参加)
	<b>【 事業総括 】</b> 初めて、講習を受ける方、以前受けているが使用法を忘れていた方など、に対して有意義な講習会が開催できた。	
各種団体事務	年間	長寿会・遺族会の事務局を担当し、各種団体事務局業務や諸関係機関との連携強化に努めた。
	<b>【 事業総括 】</b> 長寿会・遺族会の事務局業務を行い、会の運営が円滑に行えるように努めた。また、県・郡の事務局とも連携を図った。	
ひとり暮らしサポート事業	① 5月31日 ② 8月29日 ③ 1月31日	ひとり暮らしの方に、介護予防の拠点である当館を広く知ってもらうこと、社会的孤立感の解消を目指し、いきいきとした生活サポートのお手伝いを行い、体操を行ったり、健康相談、長寿会クラブの発表等を行い、参加者に一日ゆっくり過ごしていただく。
	<b>【 事業総括 】</b> 29年度も3回開催し、利用者は①32名、②36名、③37名で昨年度に比べ増加している。参加者に楽しんでいただいている。	
啓発・宣伝	随時	館内掲示板に各種行事や町のイベント、講座案内、地域包括支援センターなどのお知らせを掲示し、啓発等に努めた。「社協だより」にも各種情報を掲載した。
	<b>【 事業総括 】</b> かしのき荘のPRのため「社協だより」に記事を掲載。長寿会の「ふれあい新聞」に行事などを掲載してもらうことで新たな利用者も増えた。	
体操教室	毎月 毎週 週1～2回	① からだとあたまの体操 (開催参加者数 延べ100名) ② フロア体操 (開催参加者数 延べ214名) ③ 健康長寿体操 (開催参加者数 延べ905名)

【 事業総括 】

それぞれ、昨年度より参加者も増えてきており、新たな参加者もある。その他毎日ロビーで脳のトレーニング等、和やかな雰囲気で行っている。

## 居宅介護支援事業係

【 全体評価 】

要支援・要介護と認定された方がご自宅でできる限り自立した生活を維持できるように、その方の心身の状態や環境などアセスメントし、本人や家族と相談しながらケアプランを立て支援することができた。

新規利用者の受け入れに対しては、できるだけ協力し合って受け入れるように心がけた。

事業名	実施日時等	内容
居宅介護支援事業	年間 (月～金)	利用件数 1,074件 (月平均 89.5件)
		<p>【 事業総括 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者とその家族が、どのような在宅生活やサービスを希望されているかを把握するため定期的に訪問を行い、相談しながらより自立に向けた在宅生活を送ることができるようケアプランを作成し、各関係機関への連絡調整などを行い、スムーズにサービスを利用してサービス等の見直しもを行い、希望される在宅生活を送っていただいた。しかし、急な入所の人も多く、困難ケースや終末期を多く受け持つことで、時間と手間がかかることがあり、短期間でサービスが終了してしまうことが多かった。また、入退院時の多職種連携強化により、時間を費やすことも増えた。</li> <li>・担当している利用者の介護認定期間を把握し、場合によっては更新申請の代行を行い、行政から依頼のあった認定調査を行った。</li> <li>・在宅生活が困難になった利用者に対して、施設入所の相談にのり、施設との連絡調整などを行いスムーズに入所できるよう支援できた。</li> </ul>
介護予防支援事業	年間 (月～金)	利用件数 71件 (月平均 5.9件)
		<p>【 事業総括 】</p> <p>要支援認定を受けた方の心身の状態や環境、本人や家族の希望などを把握し、介護予防サービス支援計画を作成した。そのプランに基づいて各関係機関への連絡調整を行いサービスが受けられ、居宅において日常生活が低下することなく、自立した生活を送っていただけるよう支援できた。</p>
介護予防ケアマネジメント (第一号介護予防支援事業)	年間 (月～金)	利用件数 56件 (月平均 4.7件)
		<p>【 事業総括 】</p> <p>要支援認定を受けた方の心身の状態や環境、本人や家族の希望などを把握し、介護予防サービス支援計画を作成した。そのプランに基づいて各関係機関への連絡調整を行いサービスが受けられ、居宅において日常生活が低下することなく、自立した生活を送っていただけるよう支援できた。</p>

ふれあい食事会 (一人暮らし高齢者) 【 受託事業 】	10/4 11/8	参加者 プリズムめぐり 33名 外出 35名
	【 事業総括 】 一人暮らしの高齢者を招いて、ボランティアなどの協力により会食をし、交流する機会をもつことにより孤独感の解消や生きがいづくりを図ることができた。 外出形式と室内（プリズムめぐり）での会食を選択していただけるようにしている。	

## 訪問介護事業係

【 全体評価 】 サービス提供責任者として、居宅サービス計画書に沿った訪問介護計画の作成や、またサービス内容の確認や見直し、調整を行った。利用者のケアにかかわる関係職種とのサービス担当者会議へ積極的に参加し、現状の報告・情報交換を行った。また、利用者が住み慣れた地域で、できる限りその人らしく生活できるように支援することができた。 登録ヘルパーへの研修会では、終末期利用者への関わりについての講義、調理実習（高齢期の低栄養を予防する食事）、実技講習（麻痺のある利用者の着替えや車いすへの移乗の介助方法）を行い、ヘルパーとしての知識や意識の向上につながる、有意義な研修ができた。 新規利用者については、依頼があれば積極的に受けることができた。訪問介護事業については目標を上回ることはできたが、他事業については利用者の状態変化もあり、目標達成には至らなかった。																		
事業名	実施日時等	内容																
訪問介護事業	年間	<table border="1"> <tr> <td>実利用者数</td> <td>53名</td> <td>延べ利用者数</td> <td>514名</td> </tr> <tr> <td>身体介護</td> <td>2,215回</td> <td></td> <td>1,427時間</td> </tr> <tr> <td>身体生活</td> <td>1,955回</td> <td></td> <td>2,438時間</td> </tr> <tr> <td>生活援助</td> <td>3,612回</td> <td></td> <td>3,278時間</td> </tr> </table>	実利用者数	53名	延べ利用者数	514名	身体介護	2,215回		1,427時間	身体生活	1,955回		2,438時間	生活援助	3,612回		3,278時間
	実利用者数	53名	延べ利用者数	514名														
身体介護	2,215回		1,427時間															
身体生活	1,955回		2,438時間															
生活援助	3,612回		3,278時間															
【 事業総括 】 介護保険で「要介護」の認定を受けた方の家庭へ訪問して、在宅で生活できるように、食事・入浴・排泄などの身体介護や、調理・掃除・洗濯・買い物などの生活援助を提供することができた。																		
介護予防訪問介護事業	年間	<table border="1"> <tr> <td>実利用者数</td> <td>31名</td> <td>延べ利用者数</td> <td>172名</td> </tr> <tr> <td>要支援1</td> <td>504回</td> <td></td> <td>455時間</td> </tr> <tr> <td>要支援2</td> <td>419回</td> <td></td> <td>392時間</td> </tr> </table>	実利用者数	31名	延べ利用者数	172名	要支援1	504回		455時間	要支援2	419回		392時間				
	実利用者数	31名	延べ利用者数	172名														
要支援1	504回		455時間															
要支援2	419回		392時間															
【 事業総括 】 介護保険で要支援1・2と認定を受けた方の家庭へ訪問して、要介護状態への進行の防止と、できる限り自ら家事等を行うことができるように日常生活の自立に向けて支援を提供することができた。																		
介護予防・日常生活支援 事業	年間	<table border="1"> <tr> <td>実利用者数</td> <td>35名</td> <td>延べ利用者数</td> <td>234名</td> </tr> <tr> <td>要支援1</td> <td>727回</td> <td></td> <td>681時間</td> </tr> <tr> <td>要支援2</td> <td>484回</td> <td></td> <td>439時間</td> </tr> </table>	実利用者数	35名	延べ利用者数	234名	要支援1	727回		681時間	要支援2	484回		439時間				
	実利用者数	35名	延べ利用者数	234名														
要支援1	727回		681時間															
要支援2	484回		439時間															
【 事業総括 】 介護保険で要支援1・2と認定を受けた方の家庭へ訪問して、要介護状態への進行の防止と、できる限り自ら家事等を行うことができるように日常生活の自立に向けて支援を提供することができた。																		

援総合事業 (第一号訪問事業)	<b>【 事業総括 】</b> 介護保険で要支援1・2、事業対象者と認定を受けた方の家庭へ訪問して、要介護状態への進行の防止と、できる限り自ら家事等を行うことができるように日常生活の自立に向けて支援を提供することができた。		
障害福祉サービス (居宅、重度訪問介護)	年 間	実利用者数 8名 1,523回	延べ利用者数 61名 2,275時間
	<b>【 事業総括 】</b> 身体・知的・児童・精神障がい者、または日常生活に支障がある方が、地域で自分らしく自立した日常生活、または社会生活を営むことができるように、身体介護や家事援助などの日常生活支援を提供することができた。		
生活サポート事業	年 間	利用者なし	
	<b>【 事業総括 】</b> 障害者総合支援法で、介護給付支給決定者以外の障がい者等で日常生活に支障がある方を対象に必要な支援（生活支援、家事援助）を行っていく。		
日中一時支援事業	年 間	実利用者数 1名 50回	50時間
	<b>【 事業総括 】</b> 日中において、一時的に見守りなどの支援が必要と市町村が認めた障がい者などに活動の場を確保し、障がい者などの家族の就労支援および障がい者などを日常的に介護している家族に一時的に休息を与えることができた。		

## 通所介護事業係

<b>【 全体評価 】</b> 利用者の意志及び人格を尊重し、個々の介護状況に応じたきめ細やかなサービスを提供できるように、利用者家族やその他の関連機関との連携を密にし、サービス担当者会議など、ケア会議に積極的に参加し利用者の情報交換を行うように努めた。 個別機能訓練の内容を充実させ、利用者・家族の意向に沿った計画書・プログラムを作成し機能訓練を行っていくうえで介護予防につながるよう努め、継続した在宅生活が送れるように支援することができた。また、家族の介護負担が軽減できるように支援することができた。		
<b>事業名</b>	<b>実施日時等</b>	<b>内 容</b>
通所介護事業	年間 (月～金)	実利用者数 58名、延べ利用者数 3,798名
	<b>【 事業総括 】</b> 要介護者に対して個々の状況に応じた支援ができるように努め、身体介護・機能訓練を通じ、コミュニケーションを多く図れるように努め、心身機能の維持向上ができる支援ができた。また、家族の介護負担の軽減もできるよう努めた。	

介護予防通所介護事業	年間 (月～金)	実利用者数 15名、延べ利用者数 480名
	【 事業総括 】 要支援者に対して、心身の状況、希望及び環境を踏まえた計画を作成し、楽しみながら、集団レクリエーション活動や運動機能向上訓練等を行うことで、介護予防につながった。	
介護予防・日常生活支援総合事業 (第一号通所事業)	年間 (火・水)	実利用者数 15名、延べ利用者数 416名
	【 事業総括 】 事業計画に沿ったサービスを提供することができた。来年度も事業計画に沿ったサービスを提供するとともに、サービスの質の向上にも努めていく。	
基準該当生活介護サービス事業	年間 (火・水)	実利用者数 2名、延べ利用者数 102名
	【 事業総括 】 事業計画に沿ったサービスを提供することができた。来年度も事業計画に沿ったサービスを提供するとともに、サービスの質の向上にも努めていく。	

## 地域包括支援センター

### 【 全体評価 】

高齢化が進み、認知症高齢者やひとり暮らし高齢者などが増加し、支援を必要とする高齢者などが、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう、地域包括ケアシステムの構築が求められている。

平成29年4月より、介護予防・日常生活支援総合事業が開始し、地域包括支援センターでは、専門職が互いの特性を活かし下記の事業などを推進し、各種相談やサービスの調整などを行い更なる支援体制の充実を図った。

今後も、介護保険制度などの公的なサービスだけでなく、民間サービスや住民の支え合い活動などの社会資源を活用するとともに、関係機関と連携・協議を行い、地域住民を包括的・継続的に支援を行っていく。

事業名	実施日時等	内容	
総合相談支援業務	年間	○相談件数 (延べ)	
		電話	3,343件
		訪問	1,036件
		来所	611件
		その他	137件
		合計	5,127件



	<p>【 事業総括 】</p> <p>介護相談や認知症相談など高齢者等に関する相談を受け、情報提供や適切な機関や制度・サービスにつなげることができ、また継続的にフォローすることができた。</p> <p>今後は、早期発見・早期対応・予防的対応ができるようなアプローチや地域づくりに取り組んでいくことが必要である。</p>	
権利擁護業務	年間	<p>○相談件数（延べ）</p> <p>権利擁護 37件</p> <p>虐待 31件</p> <p>○消費者被害対策講座 2/28</p> <p>講師：奈良県消費生活センター 参加者23名</p>
		<p>【 事業総括 】</p> <p>判断能力の低下などにより、消費者被害にあった住民に対し、家族・近隣住民・民生児童委員などと情報の共有を行い、更なる権利被害を受けないように役割分担のもと支援を行うことができた。</p> <p>今後も、高齢者の権利侵害事例について迅速に対応するとともに、関係機関や地域住民に対し引き続き広く周知・啓発をする。</p>
包括的・継続的 ケアマネジメント 支援業務	年間	<p>○生駒郡内介護支援専門員合同研集会</p> <p>内容：自立支援に向けたケアマネジメント・原点回帰 全4回（7/18、9/22、1/17、2/28） 延べ参加者数162名</p> <p>○町内介護支援専門員勉強会</p> <p>8/28 介護支援専門員と民生児童委員高齢福祉部会の交流会 高齢運転者対策～運転免許自主返納について～ 参加者数 25名</p> <p>3/8 言語聴覚士の訓練～摂食嚥下・聴覚・コミュニケーション 参加者数 12名</p>
		<p>【 事業総括 】</p> <p>グループワーク等にて介護支援専門員同士の情報交換ができ、また研修をすることにより知識を深めてもらうことができた。</p> <p>今後も介護支援専門員が適切なケアマネジメントが行えるように支援する。</p>
指定介護予防支援事業	年間	<p>○介護予防支援数</p> <p>延べ利用者数 2,041名（内、包括支援センター 733名）</p>
		<p>【 事業総括 】</p> <p>要支援1・2の認定された方に対しアセスメントをもとにケアプランを作成し、出来る限り自立した生活を営めるように支援を行った。</p>
介護予防	年間	<p>○介護予防ケアマネジメント数</p> <p>延べ利用者数 971名（内、包括支援センター 343名）</p>

<p>ケアマネジメント業務 (第1号介護予防支援 事業)</p>	<p>【 事業総括 】 要支援者や事業対象者の自立支援を考えながら利用者の目標やその達成のための具体策を共有し実施した。 今後も高齢者が要介護状態になることをできる限り防ぐように支援していく。</p>	
<p>一般介護予防事業</p>	<p>年間</p>	<p>○はつらつサロンの開催 (5/25、7/21、9/27、11/29、1/25、3/30) 延べ参加者数：143名</p> <p>○元気アップ教室の開催 ・前期 (全11回) 延べ参加者数：221名 ・後期 (全11回) 延べ参加者数：220名</p> <p>○介護予防あれこれ講座 9/5 へぐりいきいき百歳体操等紹介 参加者数20名 9/12 栄養編 参加者数16名 9/19 口腔編 参加者数25名 9/26 運動編 (正しい歩き方) 参加者数15名</p> <p>○へぐりいきいき百歳体操 (10団体) ・実施地区 (H28年度から継続) 御陵苑、上庄・月見台、竜田川ネオポリス、春日丘、緑ヶ丘、菊美台 ・新規立ち上げ地区 (H29年度) 長寿会健康体操クラブ：H29.4月開始 初香台長寿会：H29.6月開始 西宮自治会：H29.6月開始 椿台百歳体操：H29.10月開始 ・へぐりいきいき百歳体操体験・交流会 2/1 参加者数：71名 ・へぐりいきいき百歳体操応援講座 2/22 参加者数：20名 ・説明体験会の開催3回 (7月はつらつサロン、9月あれこれ講座でも説明体験会を実施)</p> <p>○地域リハビリテーション専門職等派遣事業 9団体利用</p> <p>○その他 自主的な住民交流の場 (俳画教室) の開催の支援 など 12回 延べ参加者数 110名</p>
<p>【 事業総括 】 介護予防の取り組みとして住民運営の通いの場の支援などを行い、生きがいを持って生活を行う地域づくりを推進した。 また、高齢者が要介護状態になることをできる限り防ぐことができるように高齢者が気軽に集える居場所となるようにサロンを開催した。</p>		

<p>認知症総合支援事業</p>	<p>年間</p>	<p>○認知症相談会 12回開催 延べ相談者数：23名</p> <p>○認知症サポーター養成講座 15回開催 延べ参加者数：360名</p> <p>○キャラバンメイト交流会 3/8 参加者12名</p> <p>○認知症予防わくわく教室 ・前期（全11回・内1回警報のため中止） 延べ参加者数：198名 ・後期（全11回） 延べ参加者数：203名</p> <p>○認知症カフェ～心晴（こはる）～ 12回開催 延べ参加者数：269名 延べボランティア数：79名</p> <p>○認知症講演会 11/30 講師：やまと精神医療センター 紙野晃人 院長 参加者：55名</p>
<p>【 事業総括 】 前年度に引き続き、認知症相談会や認知症講演会、認知症カフェ、認知症予防教室を実施した。認知症サポーター養成講座については、町内の見守りネットワーク及び徘徊SOSネットワーク協力事業者など、講座を実施した。 今後も認知症に関する正しい知識も持ってもらえる機会を増やすとともに、認知症予防や早期診断・早期対応にむけての取り組みも実施していく。</p>		
<p>在宅医療・ 介護連携推進事業</p>	<p>年間</p>	<p>医師会と生駒郡4町が協働して各種事業に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議 3回</li> <li>・多職種勉強会 3回</li> <li>・市民公開講座開催 参加者 150名</li> </ul> <p>西和7町で専門職むけの「在宅療養支援室」の設置</p>
<p>【 事業総括 】 西和7町や生駒地区医師会等関係団体等と連携し、会議を開催し、課題への検討を行った。また多職種間の相互の理解や情報を共有できるように他職種勉強会を開催した。 今後も在宅医療と介護の連携にむけ事業を推進していく。</p>		
<p>多職種協働による 地域包括支援 ネットワークの構築</p> <p>【 地域ケア会議推進事業 】</p>	<p>年間</p>	<p>○処遇困難事例地域ケア会議の実施（5回） ○自立支援型地域ケア会議の実施（50回）</p>
<p>【 事業総括 】 多職種が協働し処遇困難事例について支援内容などを検討し、課題を解決するとともに、介護支援専門員の支援を行うことができた。また、自立支援・介護予防に資するケアプランの作成を通じた高齢者のQOLの維持向上を目的として、新たに自立支援型地域ケア会議を導入し、新規の要支援者及び総合事業対象者に対して改善可能性の見極めと自立支援に向けたケアマネジメント支援を行うことができた。 今後も必要に応じて開催する。</p>		

生活支援体制整備事業	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回協議体の開催 5/19</li> <li>○平群町安心見守り事業の実施に向けての協議・準備 など</li> </ul>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>「地域での見守り体制の構築」のため、平群町安心見守り事業の実施に向けて関係機関と協議や準備を進め、平成30年4月より実施することになった。</p> <p>今後は、平成29年度に実施された各種計画作成時に調査したアンケートから見える地域の課題について協議を行い、既存の活動内容の充実・発展のために必要とされる支援や、地域住民や関係機関・団体が関わり実施する地域に不足している活動の創出への支援などを行い、事業を推進していく。</p>	

## ふれあい交流センター

<p>【 全体評価 】</p> <p>高齢者の福祉向上及び健康増進の拠点となるように、「地域包括支援センター業務」と連携を図り、各取り組みを行った。老人福祉センター「かしのき荘」の利用者に対しても、各種事業への参加を呼びかけ、当施設の取り組みなどに対して理解を頂くようになっていく。</p> <p>今後も、当会が行っている事業や関係団体などと連携を行い、健康の保持・増進を目的とした事業を開催し、地域住民の交流の場・居場所となるように努める。</p>		
事業名	実施日時等	内 容
施設の管理及び運営	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の安全管理</li> <li>各種整備保守点検</li> <li>館内外の清掃・除草作業など</li> </ul>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>安全に施設を利用できるように、「施設の安全管理」「各種設備保守点検」「館内外の清掃、除草作業」などを行った。</p>	
高齢者の交流などにかかる業務	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はつらつサロンの開催（年6回）</li> <li>○自主的な住民交流の場への支援 など</li> </ul> <p>【 内容・参加者は、「地域包括支援センター」を参照 】</p>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>「生きがい対策」「健康の保持増進」「介護予防」「高齢者の交流」に係る業務を、地域包括支援センター業務と連携をとり実施した。</p> <p>また、地域で開催されている長寿会活動などの集会に出向き、介護保険制度や認知症への取り組みなどについての出前講座を開催した。</p>	